

日本百名山を登って

伏見 重夫 (S34 年卒)



2006 年の 8 月、空木岳(長野県南部)の頂上で私は日本百名山を登りきりました。50 歳を過ぎた頃にメタボ対策として、一念発起して登山を再開してから約 15 年が経っていました。20 歳代のときは一種の登山ブームで会社の仲間と登山やスキーによく出かけましたが、それ以来 20 年以上、まったく山とは無縁でした。再開後はもっぱら近場の丹沢山塊を登っていました。夏にはかつて登った八ヶ岳や南アルプス等に行

くようになりました。若き日に登ったときは、山は若者であふれていましたが、もはやその姿はなく、中高年、特に女性が多いのには驚かされました。

深田久弥著「日本百名山」は読んでいましたが、それを意識することはなく、むしろ登った山の数を自慢するピークハンターには懐疑的でした。ところが還暦を迎えたところから、記念に百名山に挑戦してみようかと思いはじめました。山小屋等で話を聞いているうちに、日本を代表する山を一通り知っておくのも悪くないなと思うようになったのです。登山再開後に登った山を調べたところ、百座のうち 30 座近くを登っていました(それから 6 年かけて完登にこぎつけたというわけです)。

目標を決めてからは、かなり熱中しました。先ずガイドブックを読んで大まかな計画をたてました。冬場は暖かな九州の山や、筑波山等の低山を登り、土地感のない北海道・東北・九州等はツアーを利用することをしました。会社勤めをしながらの登山は、休暇が思うように取れないのが悩みで、金曜日の夜長距離バスで出発、土日で登山、月曜日早朝帰宅、それから出勤などという事もやりました。

中部地方の山は、ひとりで行くことが多く、身の危険を感じるようなことはありませんでした。高山の稜線で雨風に会うのは心細いもので、夏でも手が寒さで麻痺してしまい、雨具や手袋をザックから取り出すのに時間がかかったことがありました。また計画にはハブニングがつきもので、下山したものの予定していたバスがなくて、タクシィが拾えるところまで 2 時間以上歩いたこともありまし

た。どの山が良かったか聞かれますが、晴天のもとで登った山はどれも優秀はつけられませんが、花の多い山は印象に残ります。アウトドアースポーツは天候に左右されることが多いのですが、登山の場合悪天候は遭難にもつながります。天候が崩れる予報のときは、ツアーのキャンセル料を惜しまず他日を期すよう心がけました。山登りは計画の段階も、下山後の記録の整理も楽しいものです。日本の山はその多くが信仰の対象になっていて、それを調べるのも興味深いものです。

百名山は健康な人なら誰でも登れます(しいて言えば剣岳(富山県)が比較的難易度が高いと思えます)。百名山を目指す日本列島の各地に行くことができます。関東地方

に住んでいる人は交通アクセスが便利ですから非常に有利です。また静岡市には 6 座(間ノ岳、塩見岳、荒川岳、赤石岳、聖岳、光岳)、静岡県には 8 座(ブラス富士山、天城山)の百名山があります。手始めにこれらに挑戦してみたいかがでしょうか。

歩く会は秋の例会は鎌倉 衣張山紅葉ハイキング

織部忠義 (S32 年卒)
 実施日 平成 22 年 11 月 23 日 (火) 祭日
 天候 曇りのち晴れ
 前日からの強い雨が朝まで続き、登りの道が滑る危険性が高いので中止しよう



コース 鎌倉駅→(バス) 報国禅寺→明治の洋館→ハイランド公園(昼食)→パノラマ台展望台→名越の切通→安国論寺→鎌倉駅(約 8 Km)

歩く会連絡先 織部 忠義 (昭和 32 年卒) TEL 0466-81-2928